コロナ禍における海外登山（パキスタン　ネパール）

川　崎　浩　史（同人パハール）

１　パキスタン　ルプガルサール（7,200m）

2021年６月11日～７月28日

１）許可取得～出国

ここ数年続けていたパキスタン登山だが、新型コロナの影響で昨年はストップしてしまい、今年は何としても行きたくて、２月に日・パトラベルの督永さんに問い合わせたところ、オープンピークの許可は出るとのこと。２年前に偵察したルプガルサール北面の申請を依頼した。しばらくなしのつぶて状態だったが５月に登山局から「ビザをオンラインで取得すれば許可はすぐ出せる」と回答が来たことから早速ビザ（登山ビザは面倒なので観光ビザ）を申請した。ビザは数日後に問題なくＰＣにメールで交付されたのだが、すぐラマダンに入ってしまった影響なのか許可が来る気配がまるでない状態が続いた。６月が近くなり悶々として焦っていたところ、出発予定１週間前にようやく許可が発行され、２年ぶりにこれでやっと念願のパキスタン登山に行けることになった。まったくやれやれといったところだ。

２）登山メンバー

私の登山スタイルについて、ここ数年日本人は私だけで他は強力なパキスタンメンバーで構成している。

その理由は下記のとおり。

１）自分一人で全ルート工作ができる。

２）荷揚げがとてつもなく早い。

３）自分の面倒だけみればよい。

４）食料など準備が楽である。

５）経験豊富な現地人の意見がよく聞ける。

６）他の日本人に合わせなくていいし、揉めない。

７）危険を感じて登山をやめても誰にも文句を言われない。

８）仮に山で自分が死んでも彼らが遺体をまちがいなく回収してくれる。（日本人では無理）

今年のメンバーは

１　川崎浩史（57才）ルート工作担当

２　シャヒーンベイグ（51才）ガイド兼荷揚げ担当

３　アクラムアリーシャ（48才）荷揚げ担当

４　クドラットアリ（51才）荷揚げ担当

５　イマノラ（30才）コック

６　エスムディーン（33才）アシスタントコック

合計６名となり、北面未踏ルートから頂上を目指すこととする。

（リエゾンオフィサーは不要な山）



左からエスムディーン（アシスタントコック）、シャヒーンベイグ（ガイド兼、高所ポーター）、アクラムアリシャ（高所ポーター）、川崎（ルート工作担当）、クドラットアリ（高所ポーター）、イマノラ（コック）

３）出国

６月11日　成田出発の前日にPCR検査を受け、搭乗３時間前に陰性結果が出た。証明書をスマホに送ってもらい、空港近くのコンビニでプリント＆持参して成田へ到着。問題なくチェックインをして、お店がまったく開いていない成田空港を定刻通り21時に離陸。中継のアブダビ空港で15時間待機して13日夜中の２時にイスラマバード到着する。空港でコロナRAT検査受けて結果は陰性。その後のイミグレーションも問題なく通過しターンテーブルのから荷物を引っ張り出して拍子抜けするくらいスムーズに空港を出て督永さん経営のラベンダーホテルに到着。

４）イスラマバードの様子

ラワルピンディには行かないが、イスラマバードのホテル近くをウオーキングしたり、メロディマーケットに買い出しに行ったりしたが、お店は通常通り営業していた。ほとんどの人はマスクをしておらず、人通りもコロナ前となんら変わった様子はない。



フンザ　カリマバードの様子

５）イスラマバード～ベースキャンプ

６月15日　国内線でギルギットへ出発。シャヒーン＆アクラムと合流。諸々の手続き開始となるが私がワクチンを打っていないことが登山局でも大問題になり、ギルギットでPCR検査を受けることになってしまった。ちなみにギルギットやフンザ、シムシャールの人々はほぼワクチンを接種済みでマスクはしていない。ギルギットでのブリーフィングも無事終わり、フンザに移動して食料装備買い出し２日滞在、その後ジープで３時間掛けて装備のデポされているシムシャール村に到着。２日間のパッキングと準備を経て６月20日にベースキャンプに向けてキャラバンスタート。22日ベースキャンプ（4,300m）到着。日本出発して意外にも、新型コロナについて順調すぎるほど問題なく登山活動スタートの運びとなる。



登攀予定ルート

６）登山活動

６月24日　フィックスロープ70本、ロックハーケン40本、アイススクリュー20本、スノーバー50本の装備で約30日間の登攀活動開始。下部岩壁帯に約15ピッチ、雪面に約10ピッチ登った個所にＣ１設営（標高5,300m、７月11日）。Ｃ１から７ピッチ雪面を登ると岩壁帯に入り、そこからトラバース気味に右に斜上して急峻な凹角に出くわし、そこを２ピッチ登ると再び雪壁にでる。

７月18日　そこから氷の斜面を右斜めに５ピッチ登ると韓国ルートの尾根に出たとこが標高5,700m。登山活動も残り約10日。翌日から６日間悪天候予報なので今年はここで終了とした。30日間の登山活動中、３～５日晴れると２～３日間は悪天候といったパターンの繰り返しでルート工作が進まなかったこ

とが敗退の原因である。今回は頂上までの約半分の地点で敗退でしたが、記録の無いとこに危険を回避しながら約45ピッチのルートを引いた、満足いくクライミングであった。ルートの核心は越えたので来年は今年の最高点から３ピッチくらい登った平らそうな雪面にC２を設営して充実した装備と食料を荷揚げし、悪天候でもC２で待機して頂上を落としたいと考えている。



BC～C1　雪壁の登行



BC帰還と今回の最高点

７）撤収～帰国

７月20日　全ての装備をBCに降ろし全員無事BC到着。25日にBCを撤収してフンザへ下山。

26日にギルギットへ移動してデイブリーフィング。27日朝、国内線イスラマバード行きが悪天候で飛ぶかどうか分からず15時まで待機。なんとか飛ぶことになり17時半イスラマバードに到着。そのまま航空会社指定のPCR検査機関エクセルラボへ向かう。翌日朝６時の出発に証明書が間に合うか心配したが、夜中２時に出してもらえることになり安堵。28日朝６時パキスタン離陸、イスタンブールで乗換15時間待ち。出発ゲートにて出発直前再度の陰性証明チェックあり。日本政府が厳重にチェック要請しているのが伺える。トルコのオリンピック選手達と同乗して夜中にイスタンブールを離陸。19時羽田着。その後、様々な手続きやPCR検査で約５時間空港に滞在。24時にようやく６泊の新型コロナ待機ホテルであるアパホテル横浜ベイに到着した。あっという間の帰国となり、日本とパキスタンカラコルムのあまりの世界と環境の違いに、この50日間、まるで夢を見ていたような気分だ。ここで要注意なのは帰国便は飛行機会社によって、PCR検査の検査機関を指定されること。何故かというと航空会社によって紙媒体の証明書を一切信用せずに、航空会社指定検査機関と連携してチケット番号など搭乗者情報をアップロード＆共有し安全性を保っているからだ。

８）羽田～帰宅

この隔離期間はホテルの部屋から廊下へは一歩も出れない。食事は３食とものお弁当とお水だけで、時間が来るとドアノブに引っかけてある。お弁当は正直、１日で飽きてしまった。カップラーメン、菓子パン、ドライ系のお菓子（せんべいなど）、ペットボトルの飲料は家族に宅配してもらうか、宅配サービス業者さんに頼んで持ってきてもらうことは可能だが、お酒、おにぎり、サンドイッチの宅配やラーメン、そばなど出前は不可である。とにかくすることがないのでお風呂入りオリンピックを見て、食事をして、寝ての繰り返し。８月３日ようやく解放されて帰宅したが、さらに１週間は自宅待機しなければならず、外出禁止に加え、スマホにダウンロードしたアプリに入国管理センターから時々の連絡があり、現在の位置やビデオ通話、健康報告をしなけれ

ばならず大変であった。約50日間の今回の遠征で私にとって何が一番大変だったと聞かれたら迷わずこう答えるだろう「それは帰国後６泊のホテル滞在だった」と。

２　ネパール　チュルーウエスト（6,419m）

2021年11月３日～11月17日

１）許可取得～出国

30年前の10月に長尾妙子氏（現山野井妙子氏）とネパールのマカルー（8,463m）に登頂後、２晩ビバークして死んでしまった大学後輩の石坂工（当時26才）のお墓にネパールで購入したお線香とマニ車をぜひともお供えしたく、11月に急遽ネパールへ行くことした。そのついでにどこか登山もしたいと考えて２年前の年末に登ったチュルーファーイースト近くのチュルーウエスト（6.419m）登山をいつものボチボチトレックさんに依頼して準備に入る。今回の登山スタイルは成田発着の日程が２週間であることから自分でルート工作を行わない、荷揚げも行わない、すべてシェルパお任せの日本ヒマラヤ協会山森欣一氏定義の高所遠足登山とした。但しジープを降りて４日から５日で頂上6,419mへ達する計画なので現地での順応トレーニングや休養は一切無視した、登りっぱなしスタイルとなる。尚、現在ネパール登山では事前に下記の書類が必要なので明記しておく。

１）登山許可申請時

1　保険内容の英文証明書（保険業者に依頼すれば入手可能）

2　ワクチン２回接種の証明書

２）日本出国時

1　ホテルの予約証明書

2　登山許可証

3　ワクチン２回接種の証明書

4　72時間以内PCR検査陰性証明書

5　www.ccmc.gov.np でオンライン登録後に取得した国際渡航者到着フォームの印刷コピー

３）ビザ

事前にオンラインで申請しプリントアウトした書類をカトマンズのビザ窓口持って行き6000円（30日の場合）支払うと取得可能。

成田からカトマンズのフライトは、現在ネパール航空直行便が週１回就航しており、パキスタンに比べると大変楽である。11月３日予定通り朝９時に成田を離陸して16時半カトマンズに到着。ビザを取得してイミグレーションに行くとホテルの予約証明の提出を求められ、せっかく準備したその他、諸々の書類の提出を求められなかった。ターンテーブルで荷物を受け取り、問題なく空港外に出てボチボチトレックのティッカ社長の出向を受けて市内のホテルへと向かった。

２）カトマンズ市内の様子

必要以外はホテルに滞在してカトマンズ観光などしなかったが、町に出るとほとんどの人はマスクをしている。道路はご存じのとおり信号が無く、車やオートバイが大変多く埃まみれでいつも渋滞。タメルの商店はほとんどのお店がオープンしているが外国人を見かけない。お客はネパール人だけといった感じなので少し寂しいように感じた。

３）登山活動

11月６日ジープ道最終のマナン（3,500m）到着。７日シェルパ２名とポーター２名の合計５名でトレッキング道を約４時間でレイダー（4,200m）着。８日トレッキング道から離れて２時間程沢沿いを歩くと広々としたベースキャンプ（4,900m）に到着。９日登山靴に履き替えシェルパ２名と３名でハイキャンプ目指して出発。途中の残置フィックスロープの状

態が悪く約200m張替えしながら登行。14時ハイキャンプ（5,600m）到着。高所障害も特になく翌10日３名とメインロープ２本で頂上アタックに向かうが、雪質悪くラッセルもあり、スタカットではとても頂上まで届く感じがしない。アタック開始２時間後、シェルパが頂上まではフィックスロープが大量に必要と判断し、最高点約5,800mで断念してハイキャンプへ下降。その後12日マナンへ下山して14日カトマンズに帰着した。ちなみにこの期間外国人登山客はいなかったが、トロンパスへのトレッキングのヨーロッパ人はちらほら歩いていた。

４）帰国

17日ティッカ社長とPCR検査を10時に受けに行き、夕方陰性証明が届く。20時カトマンズ空港へ向かう。空港に到着して内部に入る前に陰性証明書のチェックをしている窓口があり、そこで証明書にゴム印を押してもらわないと空港の内部には入れない。それ以外は問題なく搭乗手続きが完了して23時定刻どおりにカトマンズを離陸。翌18日朝９時成田到着。約３時間の手続きとPCR検査を終えて空港の外に出て空港近くの駐車場に置いておいた自家用車で帰宅した。（公共交通機関は使用不可）

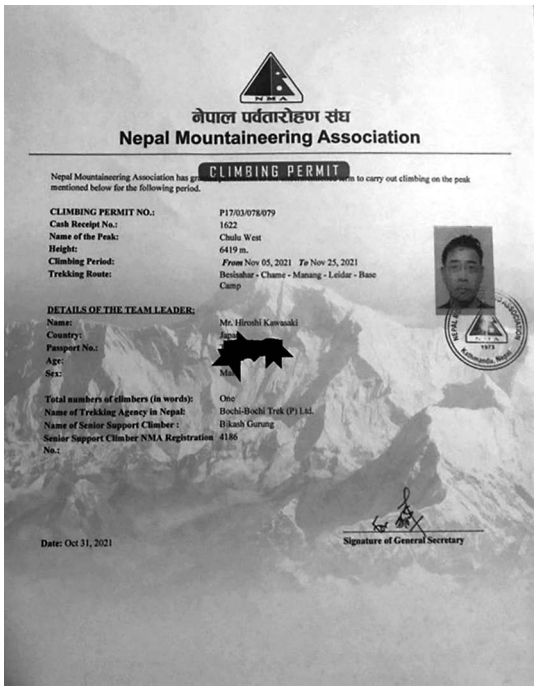
今回は夏のころと違い、ホテル待機はないがその分２週間の自宅待機が義務付けられており、夏同様に入国者確認センターから１日数回スマホのアプリに連絡が来て現在の位置確認や健康状態チェックを行った。但し、待機10日目以降指定機関でPCR検査を受けて陰性証明をスクリーンショットして送れば、それで終了となり４日間待機期間の軽減が可能。

最後に

パキスタンもネパールも昨年と今年で登山に行った日本人はどうやら私だけらしい。どちらの国にも言えることだが現地に入れば、今までと何ら変わりはなく登山が可能。ピークには立てなかったが、外国人や日本人にも会わないので私にとっては静かな登山が楽しめた。



最高到達点



नेपाल पर्वतारोहण संघ
Nepal Mountaineering Association

CLIMBING PERMIT

Nepal Mountaineering Association has gr[illegible] to carry out climbing on the peak mentioned below for the following period.

CLIMBING PERMIT NO.:	P17/03/078/079
Cash Receipt No.:	1622
Name of the Peak:	Chulu West
Height:	6419 m.
Climbing Period:	*From* Nov 05, 2021 *To* Nov 25, 2021
Trekking Route:	Besisahar - Chamé - Manang - Leidar - Base Camp

DETAILS OF THE TEAM LEADER:

Name:	Mr. Hiroshi Kawasaki
Country:	Japan
Passport No.:	[redacted]
Age:	[illegible]
Sex:	Male
Total numbers of climbers (in words):	One
Name of Trekking Agency in Nepal:	Bochi-Bochi Trek (P) Ltd.
Name of Senior Support Climber :	Bikash Gurung
Senior Support Climber NMA Registration No.:	4186

Date: Oct 31, 2021

Signature of General Secretary

登山許可証



Medical Certificate

神田北口診療所

Name : HIROSHI KAWASAKI
Passport No. : [redacted]
Date of Birth : [redacted] (in YYYY/MM/DD)

I certify that the result and details of the examination for the person named above are as follows:

Result	: **Negative**
Confirmed Time and Date	: 01:05 PM on 2021/11/01
Sampling Time and Date	: 11:05 AM on 2021/11/01 in Japan Standard Time (UTC +9)
Sample	: ☐Saliva ☑Nasopharyngeal Swab
Examination Method	: Real Time RT-PCR examination by AutoAmp Genetic Analyzer ("AutoAmp") of Shimadzu Corporation with the Ampdirect™ 2019-nCoV Detection Kit for SARS-CoV2 or COVID-19
Testing Laboratory	: Kanda Kitaguchi Clinic

2021 / 11 / 01

Dr.Takeshi UCHIYAMA,MD
Kanda Kitaguchi Clinic
Kokaji Bldg 4F,
Uchikanda 3-20-3, Chiyoda-ku
Tokyo, Japan,101-0047
tel:+81 50 5840 6565
info@kandakita.clinic
TeCOT登録医療機関

神田北口診療所 Kanda Kitaguchi Clinic https://kandakita.clinic

日本出国時　PCR陰性証明